

信濃川下流河川事務所の 令和8年度の主な事業について

国土交通省 北陸地方整備局
信濃川下流河川事務所

○ 令和8年度の信濃川下流河川事務所の事業費は **約29億円** です。

(単位：百万円)

費目	令和7年 当初 ①	令和7年 補正	令和8年 当初 ②	伸率 ②/①
一般会計				
河川整備事業費（河川）	2,190	2,794	2,323	
河川改修費	814	1,265	878	
河川維持修繕費	1,376	1,453	1,384	
河川工作物関連応急対策費	-	76	61	
海岸事業費	615	621	544	
海岸保全施設整備事業費	615	621	544	
河川等災害関連事業費	-	-	-	-
河川等災害復旧費（河川）	-	-	-	-
河川等災害復旧費（海岸）	-	-	-	-
合計	2,805	3,415	2,867	1.02

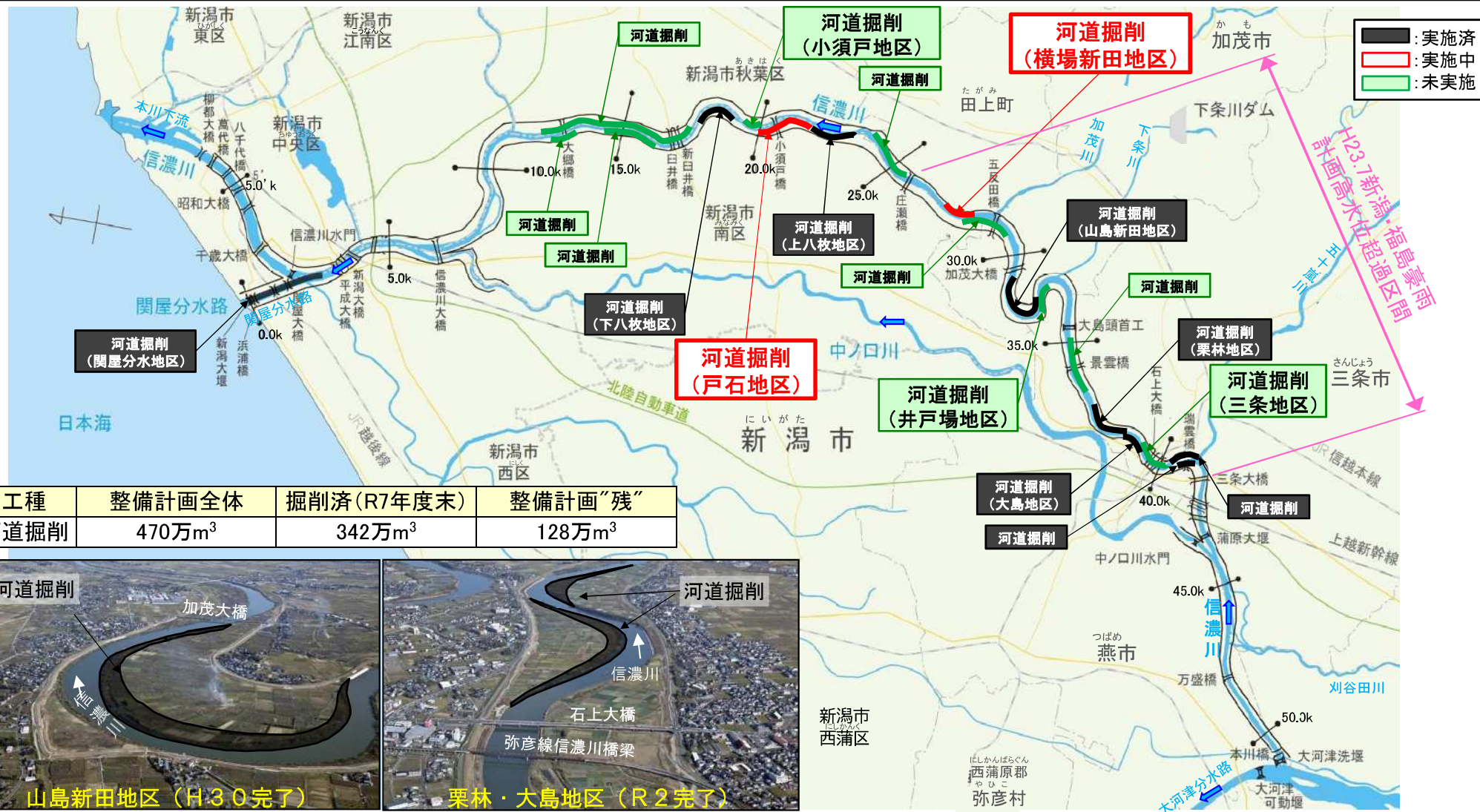
※上記の他、受託工事費(附带)及び工事諸費等がある。

※各合計値はそれぞれ百万円未満を四捨五入しているため、端数において一致しないものがある。



河道掘削の進捗状況

- 平成23年7月新潟・福島豪雨で計画高水位を超過した区間の水位を低下させるための河道掘削は令和2年度までに完了しました。
- 河川整備計画規模の洪水を安全に流下させるため、引き続き流下能力が低い区間から順次、河道掘削を実施しています。



河道掘削の効果(事業連携、環境創出)

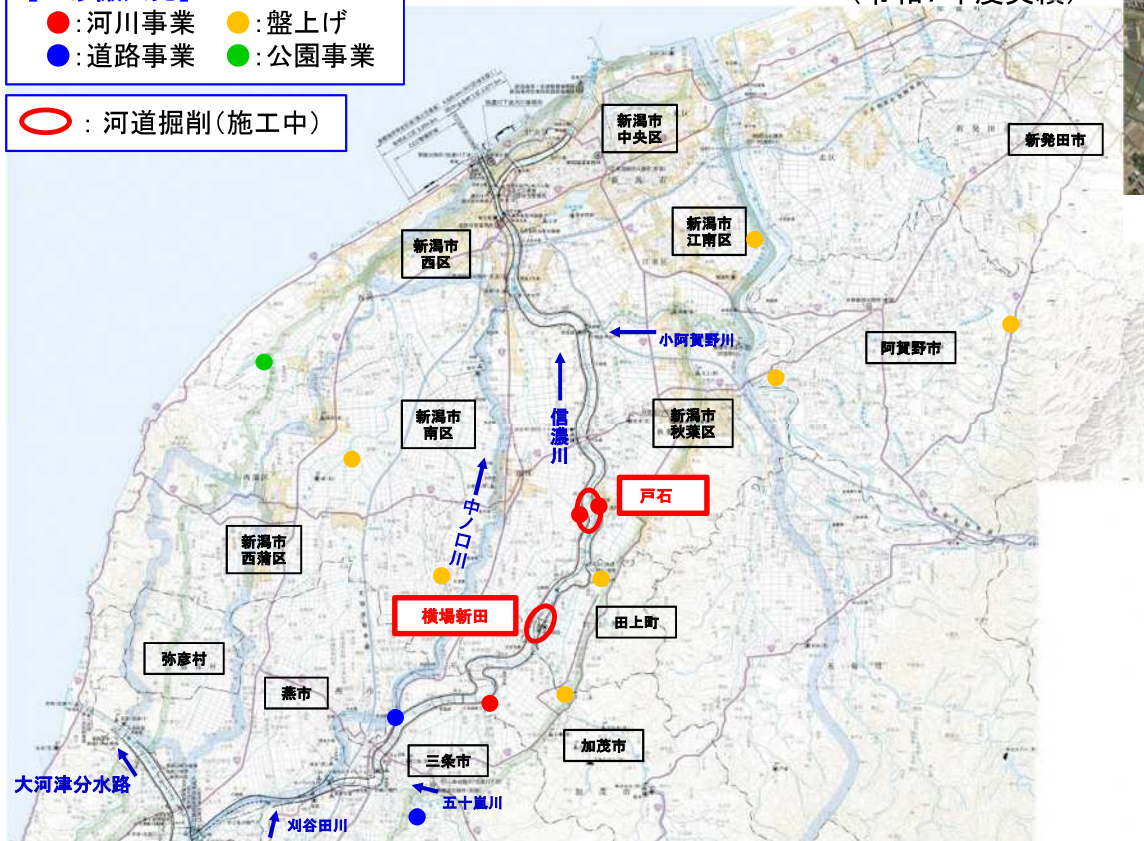
- 掘削した土砂は、農地、圃場整備や道路等の盛土に活用しています。
- 河道掘削とあわせて湿地環境を再生し、トキ・白鳥等の多様な生物が住める環境の創出に努めます。

【土砂搬入先】

- : 河川事業
- : 盤上げ
- : 道路事業
- : 公園事業

○: 河道掘削(施工中)

(令和7年度実績)



掘削前(H28)



掘削後(R3)



確認された白鳥(R7撮影)



環境に配慮した施工箇所の工事後の状況(栗林・大島地区)

【河道掘削のコンセプト】

①水の流れる断面積を広げ、洪水時の水かさを下げる。



- 現小須戸橋は、もぐり橋のため洪水の流下阻害となっており、また、右岸側取付部の堤防では、周辺の堤防と比べて高さが不足しています。
- 道路管理者である新潟市との共同事業として、令和2年度に小須戸橋の架替事業に着手し、令和16年度完成を目指して進めています。
- 令和8年度は、左岸の盛土工事及び右岸の地盤改良工事、P5橋脚工事を実施します。



新潟海岸(金衛町工区) ヘッドランド整備 【工事実施中】

○ 海岸の侵食対策として、引き続き、金衛町第1工区の中央ヘッドランドを整備します。また、第2工区の砂浜を復元する養浜工事を進めています。これらの対策により、波の打ち上げ高さを低減させ、背後地の安全度を向上させます。



ヘッドランド施工順序

1. 構造物撤去工 (既設ブロック撤去)
2. 突堤基礎工 (アスファルトマット敷設)
3. 突堤本体工 (捨石投入)
4. 突堤本体工 (海岸コンクリートブロック据付)



- 信濃川下流には大規模な河川管理施設(堰、水門、排水機場)が多くあり、中には、完成後50年以上が経過し、老朽化が進行している施設もあります。
- これらの施設が洪水時等に的確に機能を発揮するため、長寿命化計画に基づいて点検・補修を実施します。

堰・水門



改良



新潟大堰 主ゲート ワイヤロープシーブ(滑車)の交換



蒲原大堰・中ノ口水門

排水機場



西川排水機場



鳥屋野潟排水機場

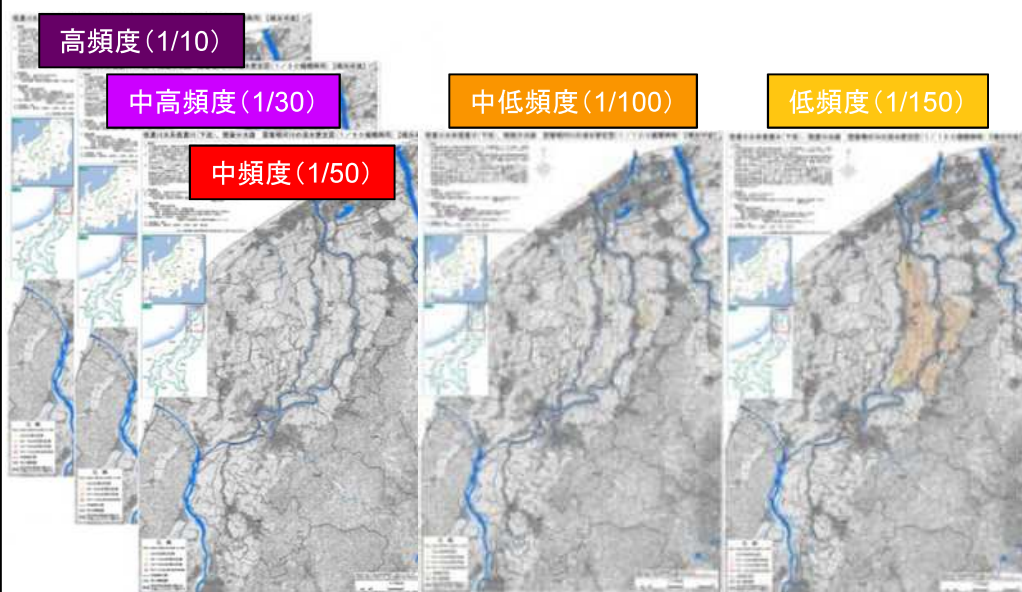
排水機場のポンプを点検し、場合によっては必要な整備を行い、出水に備えます。

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進してきた。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進していく。

■目標
信濃川下流域における外水氾濫及び内水氾濫※を対象とした、「水害リスクマップ」及び「多段階の浸水想定図」を整備する。
※内水氾濫の対象範囲は国管理河川の氾濫域内

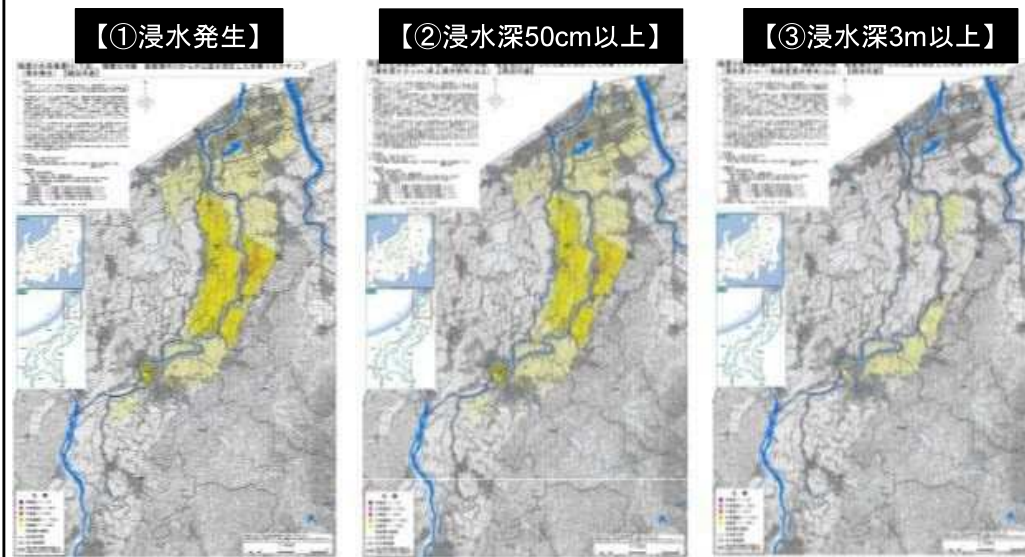
■当面の取り組み
国直轄の信濃川下流本川からの外水氾濫を対象とした、水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図をR4.12.14に公表済み。
R8.3.11に田上町エリアの水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図を公表。引き続き、他の地域も公表に向けて鋭意検討中。

■多段階の浸水想定図
各整備段階において、降雨(流量)規模別に作成した浸水想定図
※整備段階: 現況、短期、中期、中長期
※降雨規模別: 1/10、1/30、1/50、1/100、1/150、想定最大規模



信濃川下流本川の外水氾濫を対象とした多段階の浸水想定図【現況河道】

■水害リスクマップ
浸水深別に、各整備段階において、降雨(流量)規模の浸水想定図を重ねあわせた図
※浸水深別: 【①浸水発生】／【②浸水深50cm(床上浸水相当)以上】
／【③浸水深3m(1階居室浸水相当)以上】



信濃川下流本川の外水氾濫を対象とした水害リスクマップ【現況河道】

- 「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」は、河川敷地占用許可準則の緩和措置を活用して、民間事業者による商業活動等と一体となって水辺に更なる賑わいを創出することで、川とまちが一体となった魅力的なまちづくりを推進し、観光振興や地域活性化に貢献しています。
- 平成29年度からは、アウトドアメーカーが区域全体のマネジメントを担い、オープンカフェやBBQなどの飲食店等が出店しています(令和7年は6月21日(土)～9月23日(火)に開催)。令和8年には10周年の節目の年を迎えるため、更なる賑わい創出・やすらぎ堤のPRのための取組が予定されています。

＜都市・地域再生等利用区域＞
萬代橋～八千代橋の水面を含む区域

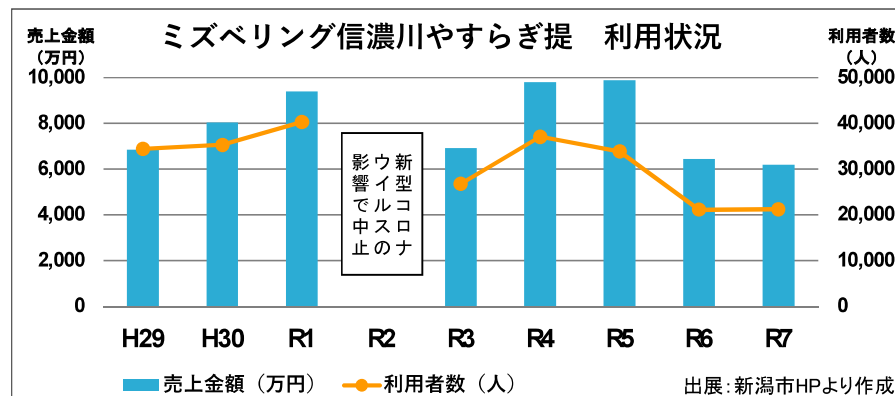


平成28年2月に萬代橋から八千代橋の水面を含む区域が「都市・地域再生等利用区域」に指定、民間事業者による企業活動が可能。

R7年度 店舗数

右岸:6

■令和7年の実施状況



■令和7年オープニングセレモニー(6/21)





信濃川下流河川事務所

X (旧Twitter)公式アカウント

防災情報や記者発表、日々の業務の様子などを発信しています。



YouTube公式チャンネル

関屋分水の紹介動画や施策に関するセミナー開催の様子などを発信しています。



関屋分水資料館

関屋分水の歴史や役割をわかりやすくパネルなどで知ることができます。

- ・所在地 新潟市西区関屋1827-39
- ・開館時間 4～10月 (9:00～19:00)
11～3月 (9:00～16:30)

